

### 1 テーマ：「真実をつかみ取り、自分で判断できる力を」

【第 1 時】今につながる文化の芽生え～室町文化とその広がり～（社会／教育出版）

【第 2 時】自分で判断できる力を（道徳／A（1）自主、自律、自由と責任）

### 2 ねらい／人権教育の 3 側面から

【第 1 時】○今も残る室町文化が生まれた歴史的背景を理解することができる。

（知識的側面）

○室町文化は、「河原者」と呼ばれた人々の優れた技術・技能によって支えられていたことをつかみとることができる。（価値的・態度的側面）

○室町文化や「河原者」の功績、当時の「ケガレ意識」について関心を持ち、さらに調べてみたいという意欲を持つことができる。（技能的側面）

【第 2 時】○「目に見えないものがうつる（ケガレ意識）」という考え方や迷信・慣習が差別やいじめにつながってきたことを理解することができる。

（知識的側面）

○さまざまな情報や歴史的事実から、「自分で調べ、自分で判断していくことの大切さ」をつかみとることができる。（価値的・態度的側面）

○自分の普段の生活や意識をふりかえり、これからの自分自身の生き方・考え方について見つめることができる。（技能的側面）

### 3 授業の内容

【第 1 時】今につながる文化の芽生え～室町文化とその広がり～（社会／教育出版）

(1)今も残る代表的な室町文化について知る。

◆電子黒板の写真をもとに、室町文化を具体的にイメージする。

・金閣 ・銀閣 ・日本庭園 ・書院造り ・茶の湯 ・生け花  
・能／狂言 ・水墨画 ・おとぎ話（浦島太郎など） ※板書カード

◎学習課題：今に残るこれらの室町文化は、どのようにして生まれたのだろう。

(2)室町文化が生まれていった経緯について教科書をもとに調べ、まとめる。

◆室町文化の特徴…公家と武家の文化がとけ合う。

◆2人の将軍と室町文化 ※板書カードを並べ替えてまとめる。

足利義満（3代将軍）

・金閣（北山文化）  
・能／狂言（観阿弥・世阿弥）

足利義政（8代将軍）

・銀閣（東山文化）  
・書院造り ・茶の湯 ・生け花  
・水墨画（雪舟）

◆地方に広がった文化

・連歌 ・お伽草子

◆仏教の影響

・仏教：禅宗…武家  
浄土真宗  
日蓮宗

☆長引いた応仁の乱も影響

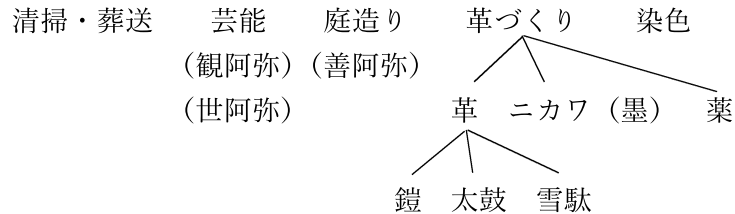
(3)「河原者」と呼ばれた人々の果たした役割について調べる。

◆教科書のコラム（歴史の窓）から「河原者」と呼ばれた人々の存在を知る。

◆資料「室町文化を担った人々とわたしたちに受け継がれたもの」を読み、「河原者」と呼ばれた人々の暮らしや果たした役割について調べる。

・室町文化を花開かせた「河原者」

「河原」…無税地、土地を持たない、水が豊富



・ケガレ意識

「ヨゴレ」…目に見える 「ケガレ」…目に見えない

ケガレ意識は、今もわたしたちに深く刷り込まれている。

※ケガレ意識については、この後の道德の授業でもう少し深く考えていくことを知らせる。

(4)本時の学習内容をまとめる。

◎室町文化は、足利義満・足利義政らによって高まっていった。その文化は、「河原者」と呼ばれた人々の技術や技能に支えられていた。

【第2時】自分で判断できる力を（道德/A（1）自主、自律、自由と責任）

(1)資料「自分で判断できる力を（自作教材）」を読み合わせ、感想を書く。

(2)グループで感想を交流し、①疑問点 ②感想 をまとめる。

(3)各グループで出された疑問点と感想を全体で交流する。

※ここで、生徒から出された疑問点については教師が補足説明をする。

(4)現代に残る迷信や慣習について、自分ならどう考えるか（「残すべき」「なくすべき」）をワークシートに記入し、グループで交流する。

・忌引き ・清め塩 ・六曜 ・丙午 ・女人禁制

※ワークシートにそれぞれの簡単な説明を入れておく。

(5)学習の感想を書く。

★生徒たちの人間関係があまりよくない場合は、事前に人間関係づくりの活動（構成的グループエンカウンターなどの活動）をしておいた方がよい。

・〇〇といえば ・絵しりとり ・宝を持っているのは誰？

・サイコロトーキング

#### 4 授業シナリオ

##### 【第1時】今につながる文化の芽生え～室町文化とその広がり～（社会／教育出版）

(1)今も残る代表的な室町文化について知る。(10分)

○これから電子黒板に写真を写していきます。何の写真かわかったら、手を挙げてください。

※手を挙げた生徒に答えてもらい、写真に対応した板書カードを黒板に貼っていく。

・金閣 ・銀閣 ・日本庭園 ・書院造り ・茶の湯 ・生け花  
・能／狂言 ・水墨画 ・おとぎ話（浦島太郎など） ※板書カード

○これらは、今も残る代表的な日本の文化ですね。実は、これらの文化が生まれたのは室町時代だと言われています。室町時代にどのようにしてこのような文化が生まれていったのかを学習していきましょう。

**◎学習課題：今に残るこれらの室町文化は、どのようにして生まれたのだろうか。**

※学習課題を、板書または掲示する。

(2)室町文化が生まれていった経緯について教科書をもとに調べ、まとめる。(15分)

○では、教科書P80～81を交代で読んでみましょう。

※教科書P80～81の本文を読み合わせる。(生徒に読んでもらう。)読ませ方は、学級の実態に合わせて進める。「個人読み(。読み)」でも「グループ読み(グループごとに交代しながら読んでいく)」でもOK。

○では、まず室町文化の特徴について書いてありました。

「室町文化は、( )と( )の文化がとけあったもの」  
何と書いてありましたか。

公家…平安時代からの貴族 武家…鎌倉時代からの武士

※ワークシートにも記入させる。

○室町文化の特徴は、わかりましたね。では、教科書には室町幕府の二人の将軍が出てきましたが、誰と誰でしたか？

・足利義満(3代将軍) ・足利義政(8代将軍)

※ワークシートにも記入させる。

○では、最初に貼った室町文化のカードを二人の将軍に関わるものに分けて、それぞれの将軍の名前の下に記入してみましょう。

○では、黒板にカードを貼ってくれる人はいますか。

足利義満(3代将軍)

・金閣(北山文化)  
・能／狂言(観阿弥・世阿弥)

足利義政(8代将軍)

・銀閣(東山文化)  
・書院造り ・茶の湯 ・生け花  
・水墨画(雪舟)

※異なる意見の生徒がいた場合には考えを発表させ、教科書を元に確認していく。

「おとぎ話」については室町時代に流行したものととらえ、どちらでもよいこととする。教科書に出てくる「連歌」についても同様だが、「応仁の乱」後に地方に広がっていったことを押さえる。加えて、仏教の影響についてもふれる。

(3)「河原者」と呼ばれた人々の果たした役割について調べる。(20分)

○室町文化が、どのようにして生まれていったのかが少しずつ整理できてきましたね。もう少し詳しく知るために、81ページの「歴史の窓」をみてみましょう。

※ここは、教師が読み聞かせる。

○ここには、「河原者」と呼ばれた人々が室町文化に深く関わっていたことが書かれています。この「河原者」と呼ばれた人々のことについて、別の資料があります。皆さんに配りますので、もらったら自分で読んでみてください。

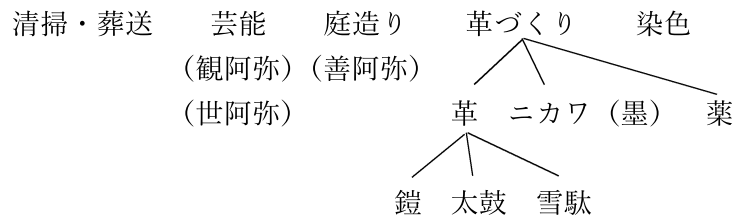
※資料「室町文化を担った人々と私たちに受け継がれたもの」

○では、「河原者」と呼ばれた人々について、まとめてみましょう。まず、室町時代、「河原」とはどのような場所でしたか。

・「河原」…無税地、土地を持たない、水が豊富

○「河原者」と呼ばれた人々は、どのような仕事を行っていましたか。

※生徒たちの発言をもとに図にまとめ、室町文化だけでなく、人々の生活に不可欠な仕事をしていたことに気づかせる。



○このように室町文化や人々の暮らしに欠かせない仕事をしていた人々に対して、まわりの人々が差別する意識を持っていたこと、それを「ケガレ意識」と書かれていましたが、「ケガレ」って何でしょうか。

※「ケガレ」とは、簡単に言えば「目に見えない災い」であること、科学が発達していなかった時代には、そのような目に見えないものがうつるというまちがった考え方があったこと、実はそのような意識が今も私たちの中に知らず知らずのうちにすり込まれていることを知らせ、そのような意識とどう向き合っていくかをこの後、さらに考えていくことを伝える。

・ケガレ意識

「ヨゴレ」…目に見える 「ケガレ」…目に見えない

ケガレ意識は、今もわたしたちに深く刷り込まれている。

(4)本時の学習内容をまとめる。(5分)

◎学習課題：今に残るこれらの室町文化は、どのようにして生まれたのだろう。

○では、室町文化がどのようにして生まれたのか、今日学習したことをもとにまとめてみましょう。

※生徒たちが考えた文章をもとにまとめる。

◎室町文化は、足利義満・足利義政らによって高まっていった。その文化は、「河原者」と呼ばれた人々の技術や技能に支えられていた。

**【第2時】自分で判断できる力を（道徳／A（1）自主、自律、自由と責任）**

- (1)資料「自分で判断できる力を（自作教材）」を読み合わせ、感想を書く。（10分）
- この間、社会科の室町文化の学習で、「ケガレ意識」ということに少し触れましたね。今日の道徳の時間には、そのことをもう少し深く考えてみましょう。
  - 「自分で判断できる力を」という資料を配りますので、みんなで読んでみましょう。
- ※教師が読み聞かせても、生徒たちに読んでもらってもOK。
- この資料を読んでみた感想を、ワークシートに書いてみましょう。

- (2)グループで感想を交流し、①疑問点 ②感想 をまとめる。（10分）
- では、みんなが書いてくれた感想をグループで交流してみましょう。感想の中には、疑問に思ったこともあるかと思しますので、グループのホワイトボードには、①疑問点、②感想 に分けて、簡単な箇条書きでまとめてみてください。
- ※各グループに、ホワイトボード・マーカー・イレイサーを配布する。

- (3)各グループで出された疑問点と感想を全体で交流する。（10分）
- では、グループでまとめたホワイトボードを黒板に貼ってください。
  - では、各グループの疑問点や感想をみんなで見てみましょう。
- ※感想については確認し、疑問点については教師から補足説明をしたり、この後考えていく視点の一つにしたりする。
- ※「目に見えないものがうつる（ケガレ意識）」という考え方や迷信・慣習が差別やいじめにつながってきたこと、「自分で調べ、自分で判断していくこと」が大切であることを押さえておく。

- (4)現代に残る迷信や慣習について、自分ならどう考えるか（「残すべき」「なくすべき」）をワークシートに記入する。（10分）
- みんなで話し合ったことをもとに、今度は一人一人が今も残る迷信や慣習にどう考え、どう向き合っていくかを考えてみましょう。何か疑問点が出てきたら、手を挙げてください。先生が行きますね。
- ※生徒たちが自分で考えることを支援する。考えが浮かばない生徒には、他の生徒の考えを紹介したり、疑問点を全体で共有し説明したりする。
- ※早く書き終わった生徒たちは、グループ内の近くの生徒と考えを交流する。

- (5)全体で意見を交流し、学習の感想を書く。（10分）
- では、少し意見を交流してみましょう。いくつかの迷信や慣習について、「残すべき」「なくすべき」に分けてもらいましたが、それぞれどちらを選んだか手を挙げてみてください。
- ※生徒たちの傾向をつかみながら、意見が分かれたものについてはそれぞれの意見を共有する。最後に、「自分が何を信じるかは自由だが、他の人に強制したり、傷つけてたりしていいことにはならない」ということを押さえておく。生

徒たちの意見については否定せず、自分で考えることができたことを評価する。

○最後に、今日の道徳の授業の感想を一言でいいので、ワークシートに書いてください。